

中級から学ぶ日本語の文型研究

第1課

使いましょう B「たとえ～でも」

例：たとえ猫が手伝ってくれても、それほど役に立つとは思えません。

問題（の中のひとつ）：たとえタクシーで行っても、とは思えません。

ここで話題になったのは、学生が正解したとしても、本当に正しくこの構文を理解したと言えるだろうか、ということでした。学生は「～でも」についてはすでに学習済みですから、大きな間違いはしないと思われそうですが、「たとえ～でも」と単なる「～でも」の違いについてまでは注意を払わない場合があり、また教える側もそれに気づかないことがあるようです。「タクシーで行っても間に合わない」と「たとえタクシーで行っても間に合わない」とでは、やはり使われる場面や意味するところが違ってきます。「たとえ」がつくことで、ありえないこと、可能性の度合いが著しく低いことが表現されるわけです。このことを的確に学生に伝えるには、どうしたらいいか。練習問題の文を機械的に与えるだけでなく、その一文の前提状況をはっきりさせることが重要だと再認識しました。

使いましょう C「～ほど～はない」

例：面白い言い方はいろいろありますが、「猫に小判」という言い方ほど面白いものはないでしょう。

問題：おいしいものはたくさんありますが、 A ほど B はないでしょう。

「Aが一番Bだ」という意味の構文です。問題文を一文ずつ検討していくうちに分かってきたことは、客観的な事実というよりも、より主観的で実際に経験したことなどをもとに実感を込めて話すときに使われるようだということでした。そのニュアンスまでも学生に伝えるためには、やはり例文だけでなく状況説明が必要なようです。

書きましょう A-2「～て、～ほどだった」

例：おかしくて、おなかが痛くなるほどだった。

問題：高い A て、 B ほどだった。

「おなかが痛くなった」と「おなかが痛くなるほどだった」の違いが、時に学生に伝わらないようです。Bに入る文は程度の高いことでないとおかしい、ということも「ほど」の意味を正しく理解すればこそ気が付くのでしょうか。「高くて、小銭がなくなるほどだった」というような文を学生が作ったら、要注意！とのことでした。

以上、一部ではありますが、当日の様子を紹介させていただきました。実際はこのテキストを使って教えていらっしゃる先生方からは、現場ならではの貴重な御意見を伺うことができました。参加している方は、TIJの先生はじめ、地域でボランティアで教えている方、教授法を勉強中の方、そして、私のように中級を今教えているわけではないけれど興味本位（！？）で参加するものもいたり、様々です。みんなそれぞれ自分の頭で考え、「これ

はおかしい感じがする」とか「こんな言い方もできるのではないかなど、思い思いに「正解のない問題」に頭をひねっています。養成講座に通っていたころを思い出す、なつかしくまた楽しいひとときでした。日本語教師の世界は、「三人よれば文殊の知恵」！みなさんもぜひ参加してみませんか。「ネタ」の持ち込み、大歓迎だそうです。ちなみに、次回までの宿題(!!)があります。

第2課

使いましょうA「～ことにした」

(例文: 私たちは今度結婚することにしました)

この文型は何かの決断を下したとき、迷っていて何かを選んだとき、これから何かを続けようとするとき等に使われますが、練習問題にある「私はあした～ことにしました」、「私は今晚～ことにしました」という形だけを出されたのでは、この文型の意味がなかなか伝わりません。「私はあした映画を見に行きます」という場合と、(あしたはテニスをするつもりだったんだけど、いろいろ考えてやっぱり)「映画を見に行くことにしました」という違いを意識することなく、単純に言葉を入れるだけの練習ではつまらないのではないかという話になりました。

使いましょうB「～よう」

(例文: 昔からの友達から招待状がくると、家族の誰かが結婚するようで、うれしいです)

B-1では練習の文として5つあげられているのですが、そのうちの4つは一般的なこと、あるいは普段のできごとの中で感じること(例 手紙が来ないと、忘れられたようで悲しくなります、この音楽を聞くと、国へ帰ったようで楽しくなります)あと1つは「あのレストランがなくなると、家がなくなるようで寂しいです」という、近い将来起こることについて感じることを述べたものという違いについてまず意識しておく必要があります。私個人がこのBの文型で気になったのは、メインとなる比喻の部分(～よう)よりも文の最後の形容詞でした。「楽しい」のか、「楽しくなる」のか、「寂しい」のか、「寂しくなる」のか、授業をやっているにもかかわらずここがいつも何となくすっきりしない部分でした。いろいろ話し合っている中で、前件の状況の変化に伴って感情が変化するという意味では「～くなる」、その状況下でどう感じるか、あるいは共感するかという意味では 形容詞+です の形ではないかといった意見が出ました。

ここから 形容詞+です の言い方は子供の作文のような印象を与える、もし手紙の中で「うれしいです」「おいしかったです」等と書きたいときはどう言い換えるかといった話に発展していきました。またこれはどの教科書についても言えるのですが、テキストに書いてあるからそのまま練習させる、練習しなければならないのではないかという既成概念は捨てて、不自然なもの、必要ないものは切り捨てたほうが良いという話にもなりました。本当に日々の授業に追われていると、流れ作業のようになって、テキストの内容をよく吟味することを忘れがちになりますが、これこそ授業の準備として何より大切なことなのでは

ないかと思いました。

第3課

使いましょう 3 A. 「～がる」

- ・第三者の気持ち・欲求を表すが、第三者なら誰でもいいと言うわけではなく、家族や身内以外では使えない場合が多い。(誤用例：社長が資料を見たがっている。*もちろん社外の人に対して、社長を内の人とみなす場合はいい)
- ・一般論としては使える。(例：最近の若者はブランド品をもちたがる)
- ・ない形は接続できない。(誤用例：母は本当は嬉しくながっているのです)

使いましょう B. 「できるだけ～ようにする」

今回の一番の難問。どう説明すれば学生の誤用を防げるかで白熱したが、明確な結論には至らなかった。是非、一緒に考えていただきたい。

学生の誤用：日本語が上手になるように、できるだけ勉強するようにしています。

訂正案1：具体的な勉強内容を書かせる。できるだけテープを聴くようにしています。

訂正案2：何に努力が必要かを加える。できるだけ毎日勉強するようにしています。

訂正案1の場合、テープを聴くだけじゃなく、いろんな方法で勉強をしているんだと学生は言うであろう。それに何と答えるか。また、「ちょっと太ってきたので、できるだけ運動するようにしています」の「運動する」も具体的なことをいってないのに、何故これはいいのかと訊かれるだろう。それに何と答えるのか。

訂正案2の場合、できるだけ毎日2時間勉強していますの様な誤用ができる可能性がある。それを防ぐにはどうすればいいか。

「勉強する」「練習する」のような当たり前の事柄が、この努力するという表現に合わないのではないかという意見もでたが、さらに説得しうる訂正案をお持ちの方はお知らせください。

使いましょう C. 「～なんて」

- ・～の部分にくるものを、大切だと思っていない。軽視している。但し、同時には導入しないにしても、～の部分をおそれ多くて自分の範疇じゃないとする用法もある。(例：私には社長なんてつとまりません)
- ・「～なんて」と「～なんか」は重なる部分も多いが、助詞を置く位置によっては「～なんて」が使えなくなる。(誤用例：京都なんてへいきたくない。cf.京都なんかへいきたくない。) また、「～なんて」は発言の内容を取り立てられるが、「～なんか」は取り立てられない。(誤用例：「愛してる」なんか恥ずかしくて言えないよ)

使いましょう D. 「～とか～とか」は検討課題がないため省略

第4課

使いましょう A-1. 「～させる」

練習問題は強制の意味の使役形の練習で、本文でもこの意味で使われている箇所もある

が、「お酒の匂いをさせて、座席で眠っているサラリーマン」という箇所がある。これは、「匂いがする」に対応する他動表現としての「匂いをさせる」で、他には目を光らせるなどの例がある。

使いましょうA-2. 「～させてください」

これもいい案が出るに至らなかったが、教科書練習問題の5番が難問だ。「A: _____」
「B:じゃあ、もう一度説明させていただきませんか」というものだがBがどういう状況で、誰に対してこの様に言っているのか想像がつかない。「B:じゃあ、もう一度説明させていただきましょう」ならわかるのだが。これについても、いい考えをお持ちの方お知らせください。

第4課

使いましょうB「～たばかり」

こという行為をおこなってからあまり時間がたっていない。この、「あまり時間が経っていない」という判断は、誰の目にも客観的に見て取れるものと、(例：このお粥は、作ったばかりなのでまだ温かい。)話者の主観によるもの(例：あの二人は結婚したばかりなのでまだアツアツだ。)とがあるが、いずれにしても何について述べる文かが明確でなければ、短文作文は難しい。このテキストの練習をしていく上では、まず、練習用の文に「_____は」の部分で学習者と一緒に考えて場面の設定をしてから文をつくる必要がある。また、動詞の～た形での接続が、テンスの意識の弱い学生にはなかなか徹底しないようである。

使いましょうC「～てたまらない」

導入に過去の経験を振り返り、「けがをして学校をずっと休んだときは学校へ行きたくてたまらなかった。」と、当時の気持ちを振り返る文が提案された。たしかに第三者の気持ちを代弁して言う、または自分の気持ちを振り返って言うときによく使われる形であるようだ。この形に使われる形容詞には実はかなり制限がある。学生の作った文の中には思いのほか誤用が多く見られた。

誤用例： 両親からの手紙を読んだときは感動してたまりません。

温泉に入ったときは気持ちが悪くてたまりませんでした。

今、仕事をみつけたくてたまりません。

日本の生活は大変でたまりません。

この表現に用いられるのはこみ上げてくる感情を表す形容詞と欲求表現であるが、その中にも使えるものと使えないものがあることが、誤用例を見ている中からわかってきた。クラスで提示する場合、この制限を始めから示すことはできないが、学生たちの作る文の中から、誤用と一緒に考えて、そこから浮かび上がってくる制限について考えていく作業が必要であろう。

使いましょうD「～と聞いていたのに、それでもありませんでした」

「～と聞いていたのですが、やはりそうでした」

ここではまず、どうして「～と聞いていた」なのかということ考えた。「～と聞いた」が、その行為のみを示すのに対し、「～と聞いていた」は、何度も聞いた、その情報を持っている、という意味が加わってくる。この文全体の運ぶ意味にはやはり、「聞いていた」で接続することが必要である。さらに、「そうでもない」についても、具体的数値などを使って程度の否定であることの導入が必要であろう。学生たちの文からは「そうではない」(事実の否定)との混用が見られた。

書きましよう A-1,2 の文型は、決して難しいものではないが、このテキストの練習として言葉を入れ換えているだけでは、学習者自身の考えの広がりを文型に乗せて表現するところまでなかなか発展しないようである。

第5課

使いましよう A-1 「～ものですね」

昔から決まっていること、自分が信じていることを理屈なしで相手に教え、諭すという機能を持つこの表現では、テキスト練習文の「すきやき」「日本酒」で学習者からの「～ものだ」は引き出せない。中国の人なら、さしずめ、「餃子」あたりなら、「餃子は茹でて食べるものです」といった表現が生きてくるだろうか。そこには、(焼き餃子より、茹でた餃子も食べてみてください。)といった、言外のメッセージも含まれてくる。

使いましよう A-2 「～ものだ」

ある出来事があって、その事への感想として出てくる表現であるが、その瞬間の感覚的な思いではなく、自分以外の誰でもが持つであろう気持ちとして使われるようである。接続は、「ずいぶん上手になるものですね(変化そのものに驚く)」、「ずいぶん上手になったものですね(変化の結果に驚く)」双方とも可能である。それにしても、このように、「もの」の全然違う用法が二つ並んで提示されていることは、学習者の理解を助けることになるのだろうか。

使いましよう B 「当たり前」

学習者は「当然」と同義とらえがちである。そのため、相手の提示したものを簡単に「当たり前です」と片付けてしまう誤用には注意したい。驚いている相手に対して、「驚くには当たらない」と述べる場面設定が必要だろう。(例：A:ここは人が多いですね。 B:ここは有名な所なのだから、人が多いのはあたりまえですよ。)

使いましよう C 「～てみると、思ったより～」

使いましよう D 「どうしたら～か」

この2問については特に大きい問題は提起されなかったので、割愛する。これは繰り返しこの勉強会で語られていることであるが、練習問題をすべてこなすことが目的ではなく、学習者が適切な例文に触れることによって最終的に自分の考えをその文型に乗せて正しく表現できるようになることが目的であろう。文を次々と作らせることにとられることなく、時には教師が与えるいくつかの良い例文と一緒に検討した後で、学習

者に一つ、きちんと自分の言いたいことで文をつくってもらう、という練習もあって良いのではないだろうか。よく吟味された例文を与えることが正しい作文を学生から引き出すために非常に重要である、と改めて感じた。

第6課

使いましょうA「～といっても」

聞き手が相手の言葉を受けて、話している事柄は相手の持つイメージとはズレがあるといういうことを表す表現だが、導入時に話し手、聞き手を一人で演じてこの文型の意味を正しく伝えるのは難しい。導入に当たっては日常生活に見られる出来るだけイメージのズレが大きいものを例に挙げて説明する必要がある。学生がその文型の意味を理解してもその後続く文章がなかなか正確に書けないケースが多い。特に前文に動詞の文章が来た場合、後文にズレがでる場合が多く見られるので指導が必要。

例：車を買ったといっても中古車ですよ。

家を買ったといっても小さなマンションですけど。

使いましょうB「～まで」

普通考えられる範囲はもちろん、普通考えられない範囲まで及んでいるということを表す表現。特に誤用例などの報告はないが、本文練習問題 2.(解答例：この本を読んで日本の習慣、歴史まで分かるようになりました)のような問題に対しては、この本はどんな本というように具体的な設定をして練習しないと学習者からの正確な解答が引き出しにくい。

例：とてもお腹がすいていたので子供の分までたべてしまいました。

(無人島に漂着)食べるものがなくて草の根までたべてしまいました。

彼女はピンクが好きで、髪の毛までピンクに染めてます。

使いましょうC「～し～し」

理由や根拠を複数言う並列の接続助詞。既に学習済みの文型であり、簡単な復習程度に留める。練習では良い事柄だけでなく悪い事柄についての表現練習にも学生が興味を示したとの事例報告があった。

例：この部屋は暗いし狭いし嫌になります。

使いましょうD「もしかすると～のかもしれない」

「～のかもしれない」はある事実や状況からその背景にある事情や原因を想像して、そういうこともあるという可能性の気持ちを表す表現であるが、「もしかすると」がつくと話者の確信がより低くなるという表現になるので、導入もその点に気をつけ必要がある。良いことの可能性を推量する例より悪いことの可能性を推量(最悪を考えて)する例のほうが学習者は理解しやすい。なお、名詞の場合は「～のかもしれない」と「～かもしれない」の両方が使える場合がある。本文練習問題では、「もしかすると」がなくてもすむ問題が多い。練習では、「T:あの人この頃元気がなくて寂しそうですね。ホームシックでしょうかね」「S:もしかすると(失恋した)のかもしれない」のように学習者にその背景にある

事情や原因を想像させて答えを導き出させるのも効果がある。

例：(子どもが夜遅くまで帰って来ない)もしかしたら誘拐されたのかもしれない。

「もしかすると」と「もしかしたら」の違いについての検討では、いくつかの例を出し「もしかすると」より「もしかしたら」のほうが可能性・確率が高いときの表現ではとの意見がでたが引き続き検討することとした。

例：大学受験：もしかしたら受かるかもしれない/もしかすると受かるかもしれない。

第7課

使いましょうA「～つもり」

A-1 実際にはそうではないのに、そうした気持ちになって他のことを行うという表現であるが、学生にその意味を理解させるのが難しい文型の一つ。

- ・自分が受け入れにくい状況を受入れやすいように理屈をつけて自分の気持ちを納得させる。

例：タクシーに乗ろうと思ったが散歩したつもりで歩いて帰った。

新車を買ったつもりで銀行に貯金した

- ・自分を違う立場に変えて見ると困難なこともやりやすくなる。

例：母親になったつもりで妹の世話をした。

大統領になったつもりでアメリカのことを考える。

(35歳で日本語の勉強をするのは恥ずかしいが)子供に戻ったつもりで勉強すれば恥ずかしくない。

「死んだつもりで」はその国でこのような概念がなければ理解させるのは難しく「死んだつもりで頑張る」など慣用的な表現として教える。

誤用例：死んだつもりで動かなかった。

A-2 「自分では～という気持ち」

・「自分の思い違い」 ・「自分では～という気持ちだが、相手はそう思っていない」に分けて指導すると学習者が理解しやすい。

- ・自分の思い違い

例：炊飯器のスイッチを入れたつもりだったが入っていなかった。

教科書をカバンに入れたつもりだったが、家に忘れてきてしまった。

- ・自分では～という気持ちだが、相手はそう思っていない。

例：Sさんに可愛いといったつもりだったが怒ってしまった。

やさしく言ったつもりだったが、泣かせてしまった。

本文練習問題 3.4.5 は上記・に当たるが、文頭に「自分では」が入っていることもあって「自分では親切なことをしたつもりだったが、してなかった」のような・・を混同した誤用例は見られなかった。

使いましょう B 「～させられる」

B-1 他から動作を強要される（既に学習済みの文型であり、簡単な復習程度に留める）。

例：あまり飲めないのに、(上司に)飲まされた。

B-2 感情を動かされる：本文練習問題 1.2.3.については、単なる使役受身の形に変える練習だけでなく、それぞれの場面を設定させるなど感情を動かされる要因を学習者と一緒に考える練習が必要。

例：(テレビで「小さな留学生」という番組をみました)

テレビを見終わって、いろいろ考えさせられました。

同じ国の留学生が頑張っているのをみて、わたしも頑張って日本語を勉強しようという気持ちにさせられました。

第 8 課

使いましょう A 「XくらいYはない」

一般的な共通概念のものではなく、各人の違った主観的意見を述べる。cf. < Xが一番Yだ >

「私は～と思う」「いいえ、私は～と思う」と自分の意見を言う状況のもとで発話させるよう導入。

例：A: (この前、パリに行ったんですが、本当にきれいでした。)

パリくらいきれいなところはないと思います。

B: 私はハワイくらいきれいなところはないと思いますよ。

使いましょう B 「XといえばY」

相手の話やそこに出てきた言葉 < X > がもとになり新しい話題、思い出されたこと < Y > を話す。

例：週末、カラオケに行ったんですが、皆さんもよく行きますか。

(しばらくこの話題で話をする)

カラオケといえば、最近のカラオケボックスはすごいですよ。

自分のCDが作れるそうですよ！

導入で「相手の話」から「新しい話題を提供する」状況を教師が二役行わなくてはならない。学生の文型理解が正しく行われるか。

練習問題3のように「タイへ旅行に行くんですよ」「タイといえば去年、私も行ったんですよ。サムイ島へ行くといいですよ」と相手に関連した有益な情報を提供、付加する場合は問題ないが、問題1のように「きのうのテレビは面白かったですね」と相手の感想を求めているにもかかわらず「テレビと言えば最近のデジタル放送はすごいですね」のように話を転換させることは失礼ではないか。

問題5は難。

使いましょう C 「Xば、それだけでY」

< XだけをすればYになる >

Xだけで充分。それだけで～できる / ～な気持ちになる。

「それだけで～だ」を強調。

例：最近は本当に便利な社会ですね。

冷凍食品は料理をしなくても電子レンジに入れて温めればそれだけで 食べられます。

パソコンのスイッチを入れればそれだけで世界の情報を知ることが できます。

「XすればY」

X：動詞ふつう形 一般的なこと

X：動詞可能形 自分のこと

例：最近の若者は大学に入れば、それだけで満足して勉強をしない

私はA B C大学に入ればそれだけで満足です

教科書の練習問題は後件を作成させるものであるが、前件を作る練習の ほうがより効果的なのではないか。

使いましょう D 「Xと同時にY」

X（辞書形）と同時にY

1 < Xと同じ時にY >

2 < Xの一方でY >

例1：電車に乗ると同時にドアが閉まった

例2：子供が結婚するのは嬉しいと同時に寂しいものだ

誤用例 お風呂から出たと同時に地震がありました

* この文を使用するという意見も有り

練習問題3は不自然な文ではないか。

「肩書きがつくと同時に人に信頼されるようになった」

「肩書きがつく」と「信頼されるようになる」の時間の幅にずれがある。

第9課

使いましょう A 「せっかく～ / せっかくの～」

1 < 頑張って、苦労してXしたのに～でした（残念、無駄） >

2 大切なXなのに

3 ご親切は嬉しいが...

例1：せっかくお弁当を作ったのに雨が降ってハイキングに行けません でした。

せっかく車をあらったのに雨が降ってしまいました。

例2：せっかくの休みなのに、仕事をしなければなりません。

例3：A：終わったら皆で一緒に食事に行きませんか。

B：せっかくですが、今日はちょっと都合が悪いんです。

例3、練習問題7, 8の「せっかくですが...」は近い間柄では使わず、距離のある人に対して使う(会社の上司など)

使いましょうB「どうしても~ようしない」

例：(ヘビースモーカーの同僚に、身体に悪いから痩せたほうがいいと言っています。医者もやめたほうがいいと言っています。)

でも、同僚はどうしてもたばこをやめようとしません。

使いましょうC「~たものだ」

過去の習慣、過去によくしたこと、繰り返したことを懐かしい気持で言う

例：姉は結婚して子供もいます。今、姉とはとても仲がいいですが昔はよくケンカをしたものです。

誤用例：私の子供のころはよく父と遊んだものです

私の子供の時代はどうであったかという一般的なこと(自分も含む)を「私は子供のころ～」と解釈し文を作る学習者がある。

誤用例：学生時代にはお金がなかったので貧乏だったものです

ひらがなが読めなかったころは辛かったものです

*「~ものです」動作動詞使用

使いましょうD「~ように思う」

婉曲、丁寧、「~と思う」よりはっきりしない、定かではない。

例：あのう、覚えていらっしゃるでしょうか。以前、お会いしたように思うんですが...

誤用例：「どこかで聞いたように思ったんですが...」は不自然。

「思うんですが...」のほうが自然な表現ではないか。

状況作りが難しい。

第10課

使いましょうA「~まま」

ある動作をして、次にその状態を変えるべきであったのに、不変の状態が続いている。そして、次の動作、事態が行われる。(結果的にみれば好ましくない状態である)

てしまうの文末を伴って、結果的に後悔の気持ち

例：ストーブをつけたまま、出かけてしまった。

本を借りたまま、3年の月日が経ってしまった。

(前件と後件の主語は同一でなくても可。)

電気をつけたまま寝ると 電気をつけて寝るの違いは?

て寝る：・動作の順番 電気をつけて、それから...

・付帯状況 電気をつけた状態で...

たまま：普通は消すのだが、そうしないで

誤用例：電車に乗ったまま本を読む。

使いましょうB「～つまり、～」

先に述べた内容を言い換える、要約する。

- ・ 会話で、相手の言った事を簡単に言い直して、確認している。

“つまり～”と言い換えるのは相手に対して少々強すぎる表現ではないか。

この練習問題は会話形式をとっているが、実際に使うだろうか。目上の人には使わないようにと注意が必要。

- ・ 聞き手が分かっていないと思われることばを、自分で言い換える時に使われる。

使いましょうC「～から～にかけて」

AからBまでの地点/時点の間どこかいつか、AからBまでの地点/時点の間全体

“AからBまで”より境界が明確ではない。

誤用例：10代後半から20代にかけて太っていた。

このままでは、一般論を期待する。「私は」を補えば可能。

朝から夕方にかけて.....

あまりに範囲が広すぎるのではないか

昼から夕方にかけて...なら、文を作りやすいか。

(例) このあたりは、夜はにぎやかだが、昼から夕方にかけては静かになります。

使いましょうD「～やら～やら」

いろいろある中で、いくつか並べあげるのに使う。「いろいろあって大変だ」という感情が込められている。こんな事まで...という気持ち。とても忙しい。/とても疲れます。/お金がかかります。/難しいです。/時間がかかります。・・・で終わって、愚痴っぽい表現になる。

例：けんかするやら走りまわるやらで.....

こんな事まで、こんな物まで...という相手を気づかって、感謝等の感情に結び付く場合もある。

例：結婚のお祝いに、お鍋やら食器やらいろいろ頂いた。(感謝の気持ち)

実家に行くと、母はお土産を持たせてくれるやら、いろいろご馳走を 作って くれるやら...(母への感謝)

第11課

使いましょうA「～ものの～」

一応～けれども、しかし

日常生活の会話では、「けれども」、「しかし」に置き換えられるのではないか。

前件は一応自分の意志で行ったけれども、後件はまだ不十分だ/期待どおりに ならない、という不本意な気持ちがこもる。

例：日本語を習ってはいるものの、なかなか話せるようにはならない。

使いましょうB「～につれて～」

前件が変化すると、その変化に伴ってまたは、その変化が原因、理由になって 後件も変化
する。

「変化を表す名詞」につれて～ も可能。 例：子供の成長 / 経済成長 につれて～

しかし、街の発展につれて～はどうか? 辞書の例文にはでてくるが 語感的に疑問が残る。

例：暗くなるにつれて、だんだん人通りが少なくなる。

暗くなるにつれて、だんだん怖くなって来る。

明るくなるにつれて、周囲のものが見えるようになる。

誤用例：暗くなるにつれてだんだん見えなくなる ×

(見えにくくなる)

学習者にとって、文末の「 変化 」の表現を使いこなすのはむずかしいようだ。

使いましょう C 「～ば～ほど」

よく～すれば それだけ程度が増す。同じ言葉を繰り返して使う。

ひとつの事柄が進行すれば、それに伴って他の事柄も進行する。

しかし、ひとつの事柄が進行すれば、一般に予想される事と反対の結果になることもある。

(考えれば考えるほど分からなくなる/腹が立つこともある。)

練習問題の(1)(2)のような例文は典型的な日本語の練習文型ではあるが、日常生活
でどれくらいこのような表現を使うだろうか。

使いましょう D 「～として」

資格、役割

例：学校時代は野球の選手として有名でした。

暇な時にはコーチとして子供達を教えています。

誤用例：私は将来母として子供を育てたい。

「母として」は、たとえば社会的にもいろいろ活躍していて他にも役割を 持っている人
については可能。

使いましょう E 「～によって」

手段。「で」で置き換えが可能。書き言葉的表現。前件に名詞は不適切なことが多い。

例：新しいコンピューターによって事務処理が速くなった。

外見を飾ることによって年齢をごまかす。/中味をごまかす。

誤用例：電話によって、遠くの人と話す。

箸によって、食べる。

箸を使う事によって、脳に刺激が送られる。

第 12 課

使いましょう A 「～ところ」 ～(する)ところ、～(している)ところ、～(した)と
ころ

という3つの形で、それぞれある時点を強調しています。

- ・ A: もう 12 時すぎですよ。まだ起きていますか。
B: 今、寝るところです。
- ・ A: すみません、ちょっとお願いできますか。(例: 郵便物を出すよう頼まれた)
B: ええ、いいですよ。ちょうど銀行へ行くところですから。

上の場合はまさにこれから何かをしようとしているという時点を表していることがわかりやすいのですが、下の場合、必ずしも「～(する)ところ」でなくても例文は作れます。例えばコピーを頼まれたという状況で、「ちょうど(私の)仕事が終わったところですから」或いは「ちょうど今、コピーしているところですから」としても成り立ちます。「ちょっとお願いできますか」という問いかけが(おそらくさまざまなバリエーションで例文が作れるように意図して)あいまいになっているため、逆にどんな状況かつかみにくくなっています。ですから、学習者がある答えを出してきた場合、どんな状況を想定しているのかを確認する必要がありますし、「するところ」、「しているところ」、「したところ」すべてを導入していれば、ここの答えは「～するところ」に限定する必要はないでしょう。

- ・ A: まだでしょうか。
B: 今作っているところですから、お待ちください。
- ・ A: 片付けてもいいですか。
B: 今(糊付けした物を)乾かしているところですから、そのままにしておいてください。

この文型の例文を作っているとき、これはただ単に今何かをしているということを強調しているだけではないのでは、という話になりました。今何かをしているのなら一目瞭然ですが、その状況が見えない、あるいは把握していないから A の側は何か問いかけるのだし、B 側はその問いかけを煩わしく感じたり、邪魔されたような一種不快な気持ちを心のどこかに感じて、「～しているところなんです」と強調するのではないのでしょうか。

- ・ A: 林さんはいらっしゃいますか。
B: たった今、外出したところです。
- ・ 駅に着いたら、ちょうど電車が来たところでした。

ここで問題になったのは「ちょうど」と「たった今」のニュアンスの違いでした。「たった今」というと、「たった今終わった」のように、タイミングを逸してしまったようなマイナスイメージで使われることが多く、「ちょうど」の場合は「ちょうど今出来たところですから、どうぞ食べてください」のようにタイミング良く間に合った場合に使われることが多いのではないかと、もし下の例文で「ちょうど電車が来た」のならば、「ちょうど電車が来てしまったところでした」となるのではないかと、という話になりました。

使いましょう B「～にとって」

あるものに対する他の人とは違った、その人独自の受け取り方

- ・ 若い人にとって、音楽は無くってはならないものです。
- ・ 私にとって、フランス語の勉強は楽しみの一つです。

学生はよく「～に対して」と混同するようです。「客に対して失礼な態度を取る」、「首相の発言に対して野党は厳しく攻撃してきた」のように、「～に対して」の場合、動詞、それに向き合う態度を示すことが多く、「～にとって」は形容詞（大切、必要、やさしい、難しい等）そのものの受け取り方、感じ方を示しているようです。下の例文の場合、単なる趣味として考えると、「私にとって読書は楽しみの一つです」のように、「～にとって」の示す独自性が感じられない文が出来てしまいます。ですから導入の場合にはその独自性を感じさせるような例文を出す必要があるでしょう。

使いましょう C 「～ものですから」

言い訳、後悔すること、残念なことになった理由を述べる。「～てしまう」と共に使うことが多い。

- ・どうしても分からなかったものですから、（答は）何も書かないで出していました。
- ・あまり面白いものですから、一晩で読んでしまいました。

下の例文で、「面白い」より「面白かった」のほうが自然なのではないかという意見が出ました。確かに時制から考えれば過去形の方が自然ですが、本を読んでいる最中に視点が行っている場合は現在形になるのではないかという結論になりました。

使いましょう D 「きっかけ」

何かある事件が起こり、それが発端となって何かを始める、決心する、やめるようなことになる、契機となることを示す。

- ・A： どうして肉を食べないのですか。

B： 生肉を食べておなかをこわしたのがきっかけで肉が嫌いになったんです。

事件性、偶然性のない場合は例えば「卒業を機に伸ばしていた髪を切りました。」のように「～を機に」のほうが合うように思われます。またテキストの例文には結婚に至ったきっかけや医者になろうと思ったきっかけを問う問題がありますが、実際にはそういった重大決心に至ることは簡単には述べにくいのではないかという意見も出ました。

第 13 課

使いましょう A 「～はずだ」

話し手の推測、当然そうなるだろうと思われること

- ・A： バス、なかなか来ませんね。どうしたんでしょう。（今、4 時 58 分という設定）
- B： 時刻表には 5 時と書いてありますから、もうすぐ来るはずですよ。

- ・A： 田中さんに電話しようと思っているんですが。

B： 今日は出かけると言っていましたから、留守のはずですよ。

中国人の学習者は「はず」と「べき」を混同することが多いようです。中国語ではどちらも「当然」といった意味の語で表されるかららしいです。ここで話題になったのは、「はず」はもちろん確信の度合いの強い推測なのですが、わざわざこの文型を使うのは、当然そう

なる状況なのに、実際はそうではない時、例えばもうバスが来てもいい頃なのに、来ない時、どうなったのか推測して「はず」を使うのではないかということでした。ですから、「～はずですけど・・・」「～はずなのに・・・」といった文末が合いやすいようです。このテキストでとりあげられている文型練習は下の例のように、単純に「はず」を入れさせるために作られているようですが、実はこういった微妙なニュアンスを考慮した上で導入していく必要があると思います。

使いましょう B「～からといって、～わけではない」

一般的に当然と思われることや（安易な）思いこみなどを否定する

- ・肩書きが立派だからといって、人柄も立派なわけではない。
- ・日本に来たからといって、すぐに日本の文化や習慣がわかるわけではない。
肩書きが立派な人は人柄も立派なように思いがちだが、そうではない。

日本に来れば、その文化や習慣がすぐわかるようになるというのは甘い考えだ。

上の二つの例文は言い換えればこのような意味になるでしょう。これに対して、

- ・日本に来たからといって、日本が好きなわけではない。
- ・交際を断ったからといって、彼を嫌いなわけではない。

この2つの例文はある行動をとった理由についてこう推測されがちだが、実はそうではないという形になります。私個人は上のパターンばかりを考えていたので、特に学生の作った3番目の例文に違和感を覚えたのですが、これもまちがいではありません。ただ両者を初めから一緒に学習者に提出すると混乱を招くことになりかねませんので、分けて整理したほうが良いと思います。

使いましょう C「～どころか～さえ～ない」

ある前提や思いこみ（例えば当然これくらいできるだろう）に対して実状はかけ離れていることを示す

- ・ A：この方のご住所をごぞんじですか。
B：住所どころか名前さえ知りませんよ。
- ・ A：もう宿題はできましたか。（電話での問いかけ）
B：今日は頭が痛くて宿題（をする）どころか、起きていることさえできませんよ。

学習者に作文を作ってもらう時、つい問題になっている文型だけで作らせがちですが、この文型のように前提が必要な場合はやはり A の問いかけから作ってもらうようにした方が良いでしょう。

第 14 課

使いましょう A「X では Y」

動作の反復

自分以外のことで使うことが多く、自分のことに使うのは客観視している場合。

Y は意志動詞が入り、～ているの形がくることが多い。

例：・母はいつも預金通帳を見てはため息をついている。

・写真を撮るのが大好きで、旅行に行っては写真を撮っています。

誤用例：家族の写真を見ては、涙が流れます。

(後件には自然になるようなことは入らない。)

使いましょう B「X たところ Y」

すごく迷った、悩んだのでXたら(意外にも)Yということがわかった。後件 Y・は発見したこと、返答内容等がくる(練習 1~4)。 Xたら Y という意外な結果になった(練習 5)。

例：・ホテルへの道がわからなくて通りがかりの人に聞いたところ、すぐ目の前の建物が、そのホテルだった。

・たばこに火をつけようとしたところ、禁煙ですよと言われた。

誤用例：この本を読みきったところ、日韓両国の問題がわかった。

(前件は、自然な流れではなく何らかの行動でなければならない。)

使いましょう C「X うちに Y」

・もうすぐXに変化が起こるので、その前にY(練習 1~5)。

・Xをやっている間にYという変化があった(練習 6~8)。

例：子供が寝ているうちに買い物に行こう。ー・

主人が帰って来ないうちにケーキを食べてしまおう。ー・

仲直りをするつもりだったが、話しているうちに、また腹がたってきた。
ー・

誤用例：あなたの話を聞いているうちにわかりました。(わかってきました)

勉強しているうちにねました。(ねてしまいました。結果だけではなく、だんだんその状態になることがわかるようにする。)

使いましょう D「まさか X はずがない」

(根拠があって)話し手が強い疑念をもち、信じられないと否定する。あるいは、Xの可能性を否定する。ただし、教科書例文のように他人の良い情報を聞いて、この構文を使うのは失礼。「はずがない」は文のすべてを否定するが、「はずはない」は他の可能性ならあるかもしれないことを示唆している。(例えば：死ぬはずがない 死なない。死ぬはずはない 怪我をしているかも)

例文：A 陳さんまだ来てませんね。今日は来ないつもりなのでしょうか。

B まさか、こんな大切な試験の日に来ないはずはありませんよ。

誤用例 特に無し

第 15 課

使いましょう A-1「(X から) Y わけだ」

X(長い経緯、複雑な説明)だからYという結果に落ち着いたという説明。Xという説明を聞いたあとのYという確認。

例文：円高が進んで輸入品が安く入ってくるようになったから、わざわざ海外の免税店で買い物をしなくなったというわけだ。

誤用例 特に無し

使いましょう A-2 「A: ~ / B: (つまり、それで) Yわけですね。」

- ・ A さんがはっきり口にできないことを B さんが言ってあげる。
- ・ B さんが、以前からわからなかったことが、A さんが言ったことでわかる。

例文：A 今日も、明日も、あさってもずっと忙しいんだ。

B つまり、私とは会いたくないと言うわけね。ー・

A 山田さん彼女ができたんですって。

B それで、最近おしゃれをするようになったわけか。ー・

誤用例 特に無し

使いましょう B 「X (てい / ておき) ながら Y」

X なのに Y は変だ / 不思議だ。X には思う、わかる、知る、気にかかる等の語が入りやすく、頭の中での考えや思いと現実が矛盾しているを表す。

例：宿題をしなければと気にかかりながらも、テレビの前を離れられない。

誤用例：1日10時間勉強していながら、日本語が上手にならない。(~勉強しているのに、~)

使いましょう C 「(たとえ / どんなに) X ようと Y」

X というひどい条件、ひどい程度にもめげずに Y。Y には変わらない決心の表明がくる。

例：彼女との結婚を家族や親戚にどんなに反対されようと、私は彼女と結婚します。

誤用例：何年日本に住んでいようと、なかなか上手に日本語が話せません。(後件が不適切)

使いましょう D 「(もう二度と) ~まい」

一回経験して懲りた結果、もうこのことはしないと決める。「~まい」は心の中で思うこと。相手に伝える場合は、「X まいと思ったのに Y」のような形になる。

例：(新しくできた店に入ったら、高くて、まずくて散々だったという事実を踏まえて) もう二度とあんな店には行くまい。

誤用例：納豆は食べるまい。(前提を確認する必要あり。自分で食べてみた結果なら。人から聞いた情報をもとにしているなら×。)

第16課

使いましょう A 「~ように言う」

テキストでは、『~ように言われているが、~ように言われているので』の形。

意味は、自分が何かをすることを要求されている。

自分にいわれているが、要求されているが.....むずかしい、できない e t c .

自分にいわれているので.....する、するようにしている。

場面は、誰かに言われていることを他の誰かに言うという状況。(間接的)

“言われている”には命令、注意、依頼のニュアンスも含まれる。

練習問題：

1) 友達に、金に困ったときは、知らせるように言われているが、友達も金持ちではないからなかなか言えない。

文章の性格上、“～する時に、～だから”と状況をイメージできる言葉があったほうがいい。

2) 妻に、タバコを吸わないように...

早く帰ってくるように...

学生は、文章は作れるが、この表現をいつ使うかということのほうが気になるだろう。作りやすいのは、先生に、両親に、先輩に...か。作りにくいのは、友達に...。

4) 両親に、夏休みには帰国するように言われているので、夏休みには帰ろうと思う。

5) 先輩に... “言われている”より“言われたが、言われるが”のほうが作りやすいだろう。

先輩に、就職の時には来るように言われたので、近いうちに行こうと思う。

学生の例文：

友達に早くするように言われているが、なかなか早くできない。

このような、状況がよく見えてこない文をつくりやすい。

この表現のロジックはわかりいいが、これが使えるということになかなかならない。

使いましょう B「～まい」

(= 推量の～ないだろう) 書き言葉として使われる。

本文では、『～しなければなるまい』の形で出ている。これは一つの文末表現として、練習問題とは分けて考えた方がいい。

“～まい”だけでは使わない。“～と思う、～と思えた、～と思っている”が後に続く。心の中で思っている事の表現。

練習問題は省略する。ただし、2)の“古い友達”は“古くからの～”の方がいい。

* 練習問題は『～だから、～まい。』の形だが、『～していれば、～まい』の形もある。

・これくらい上手に偽造されていれば、誰にも分かるまい。

・ここに隠しておけば、見つかるまい。

この際やっておけば、たぶん大丈夫だろう。というニュアンス。

『～なければなるまい』 (=そうするべきだ。無理をしてもやったほうがいい。

しかたがない。)

・この仕事は、自分がいったん引き受けたのだから、自分でやらなければなるまい。

・姪の結婚式だから、3万円ぐらい出さなければなるまい。

* 学生としては、“～なければなるまい”のほうが、しかたがないという思いを表現でき

るから、作文しやすいだろう。

使いましょうC「～たところで」

(=いくらやっても無駄だ、目指す目標が達成できない。期待する結果にならない)

後件には、“無駄だ、無意味だ、”という否定的な判断や評価を表す表現が用いられる。

練習問題：

1) どんなにさがしたところで、この不況では、なかなか仕事は見つからない。

2) どんなにしかったところで、聞いていないのだから無駄だ。

3) どんなにお金があったところで、家族がばらばらだったら幸せではない。

3)は1)、2)とは、ニュアンスが異なる。

学生誤文：

・ どんなにさがしたところで、彼のようないい人はいるまい。(×いるまい 見つかるまい)

・ どんなにたべたところで、太らない。(×太らない 太れない)

……「ても」と同じ理解をしているのではないか。

* 誤文で、文末を過去表現にしているのが、少なくない。

* “～たところで”は一回の出来事ではなく一般的なことを表現するのに用いる。

学生は、一般化した表現を作るのが苦手なようだ。(自分の過去の経験を思い浮かべて書くから)

使いましょうD ～と

(= “～と期待して、～とあって”の「と」)

～ようにと、～ためと、～したいと ……期待がこめられている

いつ～かと、だれが～かと、どこに～かと ……「疑問詞+と」は、心配して、というニュアンス

練習問題

1) 少しでもやせられるようにと、毎日ダイエットを続けている。

4) いつ帰ってくるかと家でずっと待っていた。

5) 当たったら家を買おうと宝くじを買いつづけている。

第 17 課

使いましょうA「～とおりに」

練習問題：

1) A：道はすぐ分かりましたか。

B：はい、あなたにもらった地図のとおりに来ましたから。

……この場合、ただの地図では不十分、あなたにもらった地図であれば矢印で道順などが示してあるということで使える。

……～とおりの前に付く名詞は、方法、手段が示してあるものに限られる。

使用書、育児書、計画書、料理本、予定表、お手本 e t c .

学生誤文：

A：この問題わかりますか。

B：先生にもらった答のとおりによく分かりました。(答のとおりにやったから、よく分かりました)

B「～た上で～」

(まず、動詞があらわす行動を行ってその結果に基づいてつぎの行動をとる)

* 学生に作文させるときは、何か行動を起こす、或いは、判断する、決定する前段階としてすること(人に相談する、調べる、使ってみる、よく考える……こと)を思い起こさせる。

学生誤文：

- ・ 日本語が上手になった上で、アルバイトをさがします。(×)
 - ・ もっとよくアルバイトをさがした上で、今のアルバイトをやめてもいいです。(×)
 - ・ インターネットをできる上で、電話を使うのをやめてもいいです。(×)
- ……ただ、行動の順序ととらえているのか。

練習問題

9) この家を買うことにしたのは、結婚した上でのことです。(×)

値段を見たうえでのことです。(×)

お金があつたうえでのことです。(×)

この場合、前件はほとんど決めている事柄である。

後件は、家族と相談した、周りの環境をしらべた、自分でよく考えた e t c .

使いましょう C「～によって」

(=いろいろな場合に応じて)

学生誤文：

- ・ タバコは場所によって、吸ったりやめたりする。(×)
主語を「私」にする
- ・ 休みの過ごし方は人によって、同じではない。(×)
「同じではない」は～によってと相性が悪い。～によって違う()
- ・ 子供の成長は親の教育によって、いい子になれるか悪い子になるか様々である。(×)
- ・ 気候は場所によって暖かかったり寒かったりする。(×)
～によってさまざまである。()
「場所」を「地方、地域」にする。
- ・ デパートの売上げは場所によって多かったり少なかったりする。
「場所」を「売り場」にする。
「デパート」を「コンビニ」などチェーン店という語感のつよいものにした方が分かりやすい。

* 「～によって」の表現の場合、『場所』というのは使いにくい。

地域、地方などの方がつかいやすい。

この教室は場所（席）によって寒かったり暑かったりする。

この劇場は場所によって、音響がよかったり悪かったりする。

の場所には、単に位置だけを意味するのではなく、その環境、条件なども含まれている。

語彙だけ取り出してみると意味に違いはないようでも、文章にしてみると収まりの悪い事に気がつく。語彙の使い方に注意を要する。

第 18 課

使いましょうA「～べき」

(一般論として) そうすることが、現状よりも望ましい、と考える。

例：日本の学生はもっと勉強するべきだと思います。(話そう 4 課既出)

「べきです」は、人に対して使うにはかなり強い言葉。

例文、練習 1 の「どうあるべきか」という形も意味が捉えにくい。平易な形で導入、意味の確認をしたほうがよいだろう。

「～はず」との混用が中国語母語の学生によく見られる。

使いましょうB「～う・ようというのである」

他者の注目するべき行為を前件で描写し、後件でその意図を説明する。

この文型に関しては、本文を読んでからのほうが練習に入りやすい。

例：彼は一生懸命に日本語を勉強している。3 ヶ月で日本の大学に入ろうというのである。(3 ヶ月、という具体的な言葉が必要)

日本の会社では 1 年に一回社員旅行がある。みんなで旅行をして、親睦を図ろう、というのである。(後件の語彙もこの際に紹介)

使いましょうC「とても～ない」

実際の能力ではなく、見ただけで心理的にだめだ、とってしまう。

例：自分の子供を殺すなんて、私にはとてもできない。

一億円もするマンションなんて私にはとても買えない。

練習 5 . せっかく図書館で借りてきた本だったが、(難しくて)とても読めないと思ったので、そのまま返してしまった。

使いましょうD「～にもかかわらず」

～であるのに、それでも、～ という逆説。「～のに」は話者の期待があって、それが裏切られた、という感情的なものはいるがこれは客観的に食い違いを述べる。

例：お忙しいにもかかわらず、早速にお返事をいただき、ありがとうございます。

「のにもかかわらず」となると、話者の気持ちが「のに」に近づき、客観性が薄れて当事者的になる。

前件は文であることが望ましい。

日本人にもかかわらず、～

日本人であるにもかかわらず、～

使いましょうE「せめて」

本当はもっと高い要望があるのだが最大限に譲歩して、あえて最低レベルのことを提示し、切実に望む。

例：給料はせめて月7万円は欲しいですね。(どれくらい欲しいか、最低どれくらい必要かを学生と話し合った結果、文を作る)

母が重病で死にそうだという。せめて顔だけでも見たいと思い、急いで国へ帰ることにした。

「最低～」と同義と考える誤用が多い。

誤用：夏休みはせめて3時間は勉強しました。

誤用：山の上がこんなに寒いとは思っていませんでした。せめて3度です。

数値と関連づけた例文ばかりだと、「最低」と同じ、と考えがち。

この段階では「せめて～(て)ほしい」で一つの表現として練習してもよいのではないか。

第19課

使いましょうA「～限り」

今、前提としている状況が続く場合には～(何が前提とされているのかを捉えておく必要がある。)

学生の混乱を避けるため、前件は、「～ない」の形に固定して練習したほうが良い。

例：大雨が降らない限り明日は遠足に行きます。(降る場合、降らない場合、を図示したほうがわかりやすい)

人の欲望がなくなる限り、戦争は続くでしょう。

この対話形式の練習が本当に必要だろうか。

「よほどのことがない限り」は、慣用的。文型の練習とは別に捉えるべき。

使いましょうB「どちらにしても」

aの場合も、bの場合も変わらず言えること。必要なこと。

例：大学へ進学するにしても、専門学校へ行くにしても、どちらにしても日本語の力は必要だ。

この練習のような、aにするか、bにするか、という質問への答えにはならない。

「さあねえ、ちょっとわかりませんが・・・」といった前置きが必要だろう。

使いましょうC「もっとも～といっても」

すでに述べられた前件を受けて、それに修正を加える。

(本文)「花火でもしょうか。」機嫌のいい日の父はそう言って、兄と私を連れ出した。

あるいは仲良く庭仕事を手伝った子供たちに礼をするつもりもあったのかもしれない。もっとも、花火といっても線香花火である。

「もっとも」「～といっても」それぞれ単独でも使用可。「もっとも」が効果を表すのは上記本文のように前件のあとに一段階おいて前件にまた触れる、長文になってきたとき。短文だけではその本来の機能は見えにくい。

使いましょうD「～ふう」

*「こんなふうに」 今、目の前でやってみせている様子全体を指す。

*「～というふうな様子で」 比喩的。あたかも目の前で～と言っているような様子で。

練習3. ～二度と顔も見たくないというふうな様子で は重複表現。

どんなふうになれば～ 具体的な技術全体を今、目の前で見せて欲しい

どうすれば、そんなふうにできるんですか。 今、結果・成果を目の前にしてその方法を説明してほしい。

第20課

使いましょうA「XことにY」

Yで話す内容の話し手の気持をXで述べる。Xには気持ちの言葉が入る。

しかし、単なる気持を表現するだけではなく、Yに対する話者の意外性が伴わなければならない。

例：うれしいことに家に帰るとキムさんから手紙が届いていました。

これをただうれしい気持を強調する文として使う場合は不可。この文が出てくるには「まさかキムさんから手紙がもらえるとは思っていなかった」という意外という気持ちがなければいけない。学生の作った文が、どのような状況で述べられているのかを確認する必要がある。

このテキストの練習問題をそのまま使うのは難しい。「その事件」「その計画」がどういうものなのか、きちんと状況設定をしてからでないと練習しにくい。また、「～ことに」の練習であるのだが、一文が長いので何の練習をしているのか焦点がぼやけてしまう可能性がある。

他に「～ことに」には言いにくいことを言うとき、何かを報告するときの言い出しに使われる用法もある。

使いましょうB「Xを通して」

XがAとBの間に入って何かの働き(仲立ち)をする

例：外国人との交流を通して、その国の文化を知った。

基本的な意味を理解することは比較的容易と考えられるが、次のような誤用が多く見られる。

誤用例：手紙を通して気持を伝える。

彼女と付き合うことを通して彼女の考え方がわかった。

このように「～で」を使うべきところ「～を通して」を使う誤用多い。単なる手段として使っては誤用になってしまう。

例：歌を通して気持ちを伝える。

アンケートを通してサラリーマンの休日の過ごし方がわかった。

これらの文は、歌、アンケートの内容によっては可になる。例えばアンケートの内容が休日の過ごし方そのものを問うものであれば不可だが、仕事に関するアンケートから休日の過ごし方までもわかったというような場合は可になる。

「～を通じて」との違いは何か。ただAとBの間の道をつくるような場合「～を通じて」を使い、AとBの間で何か重要な働きをする場合「～を通して」を使うのではないだろうか。

例：スパイを通じて情報を得る。

書物を通してその国の文化を理解した。

使いましょうC「あたかも～かのように」

「まるで」の書き言葉。

「まるで」より大きなこと、大袈裟なことに使う。後件は固定をして練習をしたほうがいい。

あたかも～かのような気がする（～かのような気がして<楽しい>です）
ように感じる

大袈裟なことを表現する場合に使われるため意味的には誤用ではないが、学生が使う語彙と「あたかも」のバランスが悪い文が多く見られる。

例：外国で同じ国の人と話しているとあたかも国にいるかのような気がする。

練習問題（1）のように「ここにいると～」の「ここ」（2）「彼」などのように具体性のない文は作文をしにくい。状況を明確にする必要がある。

例：ディズニーランドにいるとあたかも童話の世界にいるような気がする。

練習問題（3）おそらく「彼と話していると兄と話しているような気がする」という答えを意図して作られていると考えられるが「あたかも」を使うほどの文ではないのではないかと。

練習問題（5）「彼女はあたかも何でも知っているかのように話す」など、話す様子が普通ではないという意味で使うため、文脈によっては否定的な意味が含まれることもある。

使いましょうD「XとはいえY」

確かにXではあるが、Yまだ問題点が残っている。

例：男女平等社会になったとはいえ、女性の管理職はまだまだ少ない。

ただ現状を述べるだけでなく問題意識をもって述べている。

（確かに良くなっているがまだ完全ではない）

「～からといって」「～ても」のように単なる逆説と捉えている誤用が多く見られた。

誤用：有名な大学に入ったとはいえ、卒業してからいい会社に入れるわけではない。

英語を四年間勉強したとはいえ、英語であいさつもできない。

練習問題には、個人的なことを述べている文が多いが、それには「～とはいえ」という文

型は固すぎるのではないか。社会的問題などで導入した方がいいだろう。

練習問題(2)「二十歳になったとはいえ～」「二十歳」が立派な大人だという認識がなければ作れない。

使いましょうE「XだけにY」

Xなら当然Yだ、XだからこそYだ

例:(パソコン)ずっと欲しいと思っていただけに、父からプレゼントでもらったときは本当にうれしかった。

普通でもうれしいが、一層、そのうれしさ、気持を表現する文でなくてはならない。そのため学生の作る文は、一見、誤文には見えないかもしれないが、本当に「～だけに」の意味を理解しているかどうかはわからない。Xで述べられている内容で確認する必要がある。「～だけに」はニュートラルな表現ではあるが、人を誉める場合には「～だけあって」のほうが落ち着きがいいように思われる。

例:お茶の先生だけあって所作がとてもきれいだ。

練習問題(1)×努力をしてきただけに、できたときはうれしかった。

苦勞をしてきただけに、できたときはうれしかった。

「努力をする」というのは具体的でないので不可。

第21課

使いましょうA「～する一方」

ある状況が一方に、良くない方向に進んでいる。必ず、何かしらマイナスの要素が含まれている。

例:株価は下がる一方だ。

病気は悪くなる一方だ。

また、警告、要注意の意味でも使われる。

練習問題(3)マスコミの役割は大きくなる一方です。

使いましょうB「～ずつ」

練習問題は、何について述べている文なのか?

練習は、別に用意した例でやったほうがいいのではないか。

使いましょうC「AはBとは比べものにならない」

AとBの優劣の差が比較する必要のないほど大きいことを表す。

その二つの間には共通点、似ていることがあるが、ある一点での大きな違い(優劣、重大さ)を述べるのに使う。

例 A:パーティの予約をしようと思うんだけど、A店とB店とどっちにしようか決めかねてて・・・。

B:それなら、A店のほうがいいと思うよ。

味や値段は大差ないけど、サービスの点では比べものにならないから。

状況設定をきちんとし、問いかけに対する答えとして練習するほうがいいだろう。
練習問題では「～という点」の「～」に入れる言葉は固定されているが、そこを学生に作
らせるほうが練習しやすいのではないか。

使いましょう D 「～（名詞）次第」

～によって決まる

例 A：週末、キャンプに行くの？

B：行くかどうかは、天気次第かなあ。

A：来年、能力試験1級に合格できるでしょうか？

B：（できるかどうかは）あなたの努力次第ですよ。

特に問題点は出されなかったが、「～」に入る言葉は練習問題にあるようなもので、ある程
度限られているようだ。

第22課

使いましょう A 「～がち」

一般的に好ましくない傾向にあること。ややもするとそういう状態になってしまう、
とかくそうなりやすいといった意味を言う。

練習問題

2) 6月、7月は～ではっきりしない天気が続く。

「雨がち」という言葉も使われている（使わないという人も多かった）が、この文はは
っきりしないという言葉があるので「曇りがち」。

3) 年をとると、いろいろなことを、～がちになる。

「忘れがち」を入れさせたいようだが、「忘れがち」は「日本人は水の有り難みをつい忘
れがちだ。」などのように使うほうがぴったりくるのではないか。

誤用例

・学生のころは時間があれば小説を読みがちだった。（よく～するという意味でしか捉えて
いない）

・学生の頃はあまり勉強しないで遊びがちだった。（遊びがち 怠けがち）

・授業中寝がちだった。（寝がち 寝てしまいがち）

「がち」の前を学生に自由に作らせるとしっくりこないものがたくさん出てきてしまう。

「病気がち」「遅れがち」など、よく使うものだけを出し練習する。また、動詞の場合は、
よく注意しないとそうなりがちだといった意味で、「～てしまいがち」「～なりがち」など
の形で練習するとよい。本文の「遠慮がち」は遠慮している様子でという意味で練習問題
とは異なる。

使いましょう B - 1 「～だけあって、～はさすがに～」

予想した通りでやっぱりすごい、評判通りだと感心するときを使う。

練習問題

2) ~の王様だけあって、~はさすがに~。

「~の王様」より、「~の名人」とか「~の達人」などのほうが作りやすい。

誤用例

- ・国際都市と言われるだけあって、　　はさすがに人が多い。(人 外国人)
- ・子供にサッカーを教えているだけあって、李さんはさすがに有名なサッカー選手だ。
「さすが!」という感嘆詞を使う状況から導入する。
- ・さすがに3年間勉強しただけあって、彼は日本語が上手だ。
- ・3年間勉強しただけあって、彼はさすがに日本語が上手だ。

「さすがに」の位置については「さすがに」がかかるのは日本語が上手だという部分なので後ろに来るほうが自然だとの意見あり。

使いましょう B - 2 「さすがの~も~」

この人だけは別だと思っていたが、その人さえも、その状況には勝てなかったという意味を示す。

練習問題

3) 40度も熱があつて、さすがの　　さんも実力が出せなかった。

誤用・特になし

使いましょう C 「~の下で」

物の下、人のいる所、影響が及ぶ範囲、規則や支配が及ぶ所という意味

練習問題

- 1) 彼は15歳まで両親の下で厳しく育てられた。
- 5) 周りの人々の暖かい援助の下で彼は人生をやり直した。

誤用例

- ・厳しい社長の下で会社の業績が上がった。(社員が頑張ったという部分が抜けてしまった)
- ・コンピューターの普及の下で家で仕事ができるようになった。(影響という意味に引っ張られたようである)

「~の下」での後に来ることばはかなり限定される。~の下でがんばり、どうなったかを考えさせる。

使いましょう D 「それにしても」

前に述べたことを確かにそうだと一応認めながらも割り切れない感情や不審感を表す。

練習問題

- 1) A: 山田さんは今日はまだ来ませんね。
B: ええ、遅れると言っていましたから。それにしても、ちょっと遅すぎますね。
何かあったんでしょうか。

誤用例

- ・ A : 日本の牛肉は高いですね。
B : そうですね。それにしても、いつも買って食べます。(それでもという意味で理解してしまっている。)
- ・ A : この美術館はよくこんなにたくさんの作品を集めたものですね。
B : そうですね。それにしても多すぎますね。(それにしても似たような作品が多いですね。)
- ・ それにしても、遅すぎですね。(遅すぎますね。)
「それにしても」は話題を変える場合にも使われるが、ここでは相手の言った事を一応認め、それに一言加えるような形(やや批判的なもの)で練習する。「~すぎる」で固定して練習しないほうがいい。
本文の「それにしても」は「心に引っかかっていたことを思い出す」使い方。

第 23 課

使いましょう A 「~以上」

~のだから当然と理由を言い、話し手の判断、決意、勧めなどを言う。

練習問題

- 2) 生きている以上、~。
生きているの前に、「芸能界で」とか「政治の世界で」といったことばを補ったほうが意味がはっきりする。
- 3) ~以上、これからまじめに働こうと思います。
これからを取ったほうが作りやすい。
- 5) 倒産することがわかった以上、早くほかの仕事をさがそうと思います。

誤用例

- ・ けがをした以上
- ・ 子供ができた以上、まじめに働こうと思います(子供ができた 母親になった)
以上の前は覚悟を持ってする行為とか立場などがくる。

使いましょう B 「~に応じて」

- ・ 外からの働きかけにこたえて行動を起こす。
- ・ その状況の変化や多様性に合わせてという意味。

練習問題

- 1) 2) はやらない。
- ~の要求 / ~の要望 / 注文に応じて等で練習したほうがいい。
- 6) 人々はTPOに応じた服装をしています。

誤用例

- ・ 国に応じて味をこくしたり、うすくしたりします。
「よって」と間違いやすいが、~によって違う。~に応じて変える。という違いがある。

使いましょうC「～なんて、およそ～ない」

一般的、常識的に考えて、「全く～ない」と否定を強調する。程度のひどさに驚いたり、呆れたりしている。

練習問題

- 3) 10年後に自分が何をしているかなんて、およそ見当も付かない。
- 4) こんなことに税金を使うなんて、およそ無意味だ。
- 5) 飛行機で突っ込むなんて、およそ今までに例のないことだ。

誤用例

- ・今後の大学生活なんて、およそ見当も付かない。(オーバーすぎて不自然)
- ・日本に住んでいるのに、日本語を全然勉強しようとしないうちにおよそ無意味だ。(「無意味だ」は何かに対する批判を言い表す意味で、誰もがそう考えるような一般的、社会的なことで練習する。)

「無意味なこと」「見当もつかないこと」「例のないこと」を社会で起きた事件などで先に考えさせる。議論の形にして、この表現がどのように使われるか示すのもよい。

使いましょうD「やむを得ず」

できればそうしたくないのだが、事情があって仕方なくそうする。望まないことを消極的に受け入れる。

練習問題

- 4) お世話になった先生の紹介だったので、やむを得ず会うことにしました。

誤用例

- ・狂牛病が発見されたので、やむを得ず仕事の時間が短くなった。(店長の立場で...狂牛病が発見されてお客さんの数が減ってしまったので、やむを得ず、従業員の労働時間を短くした。)

「仕方なく」はあきらめの感じが強く、「やむを得ず」は自分は認めていないのだが、ひきさがるしかないといった意味で、語感が違う。

第24課

使いましょうA「その一方で～」

- ・あることを並行して行う

例：石原都知事は都知事として有名だが、その一方で作家として活躍している。

(この場合、前件は誰でもが認識していることで、後件は意外な一面があるということがくる。両方が同じ比重だったらこの表現は使わない。)

- ・対立した事柄をいう。

練習問題1～5は社会的な状況を論じる文章。前件にプラスの面を挙げ後件にマイナスの面を挙げているが、必ずしも前件と後件が対立する事柄でなくてもいい。

練習5 川や海が少しずつきれいになってきた。しかしその一方でその他の環境問題が起こっている。

前件と後件が対立する事柄でなくても、“それだけではなくて”というニュアンスで使うことがあるのではないかという議論があった。しかしなかなか良い例文はでなかった。懸案として残っている。

使いましょう B 「～をはじめ」

関連するものが複数あるときに代表として一つを前にだして、その他を後に続ける。

練習3 私の家では、父をはじめ母と私が..... ()

(3人家族の学生の文・誤文)

私の家では、父をはじめ家族全員が... ()

“家みんなが”ということを強調している。

使いましょう C 「～をめぐる」

あることに関して、その問題の周辺も含めていろいろな人が議論したり話し合ったりする。

・「～をめぐる研究する」は×

・ N(複雑な問題)のことにあってもないこうでもないと意見を出し合う、という意味。

アフガン復興をめぐる...、北方領土をめぐる...、財産をめぐる...

学生は、めぐる出される意見(主張)を具体的に提示しないと単に「に関して」と同義ととらえる可能性がある。

使いましょう D 「～わけにはいかない」

本当はイヤなんだけれども、立場上、道義的な理由から仕方なくするという話し手の気持ち。

・ 日本に来る留学生は、日本語学校に行かないわけにはいかない。(×)

日本に来る留学生は、日本語学校に行かなくてはならない。()

(「～なくてはならない」は自分の中で、絶対に大事だという価値観を表すときに用いる。)

・ 仲間と麻雀をして帰りが遅くなる言いわけを奥さんにする時「本当は、早く帰りたいんだけど、メンバーが足りないから帰るわけにはいかないんだよ。」といえば奥さんも「あなたもたいへんなのね、ご苦労さま。」という気持ちになるような、したいとかしたくないとかの問題ではなく、“しょうがないんだ”という、いかにも日本的な使われかたをする。

学生は、自分の言いたいことと反対になってしまわないように「するわけにはいかない。」と「しないわけにはいかない。」の使い方に注意が必要。

第 25 課

使いましょうA「～における／～においては」

論文、新聞など硬い文章に用いる。「～で」よりは、話し手がNをより強く意識している。

- ・ N (抽象的な場所 / 時 / 場合) における...
日本における... 日本社会における...
- ・ Nそのものの状況が重要であり、出発点なのだから、まずNについていろいろ考察、議論した上で、その中でマスコミの役割や男性の立場等が大きくなってきた、変わってきた、という文になる。
- ・ 学生にNを作らせるのは難しいので、練習問題では後件を作らせるようになっていいる。しかし練習問題の1～5の後件には、～重要になっている。～問題になっている。～大きい。大きくなりつつある。等、どれも同じようなことばが入る。

使いましょうB「～さえ～ば」

最低それがあれば大丈夫だ。

練習 3 A : まだできないんですか。

B : 5分さえあれば、それで終わります。(学生の誤文)

使いましょうC「～たびに」

～する時はいつも / 毎回。 同じ事を繰り返している

練習 2 あの人は会うたびに綺麗になっていく。(同じ変化が繰り返される)

練習 5 ・ 毎年夏が来るたびに死んだ息子のことを思い出す。()

(夏に息子が事故で死んだという強烈な記憶)

・ 毎年夏が来るたびにハワイに行く。(×)

使いましょうD「～つつある」

～ことによって～つつある

あることが原因/理由となって、ある状況/事態が進行中である。

練習 1 地球の自然は人間によって破壊されつつある。(×)

〃 人間が開発を進めることによって破壊されつつある。()